

近年にない豪雪をもたらした厳しい冬も去り、北国の学び舎も瞬く間に美しい桜に包まれ始めています。これから訪れる暖かい季節に希望が感じられる今日の良き日、令和 3 年度山形県立置賜農業高等学校の入学式を迎えることができました。

ただいま入学を許可した 63 名の新入生の皆さん、ようこそ置賜農業高校へ。心より歓迎します。

本校は開校以来 125 年の長い歴史を持つ、県内でも有数の高等学校です。地元の産業、経済を支えてきた誇りと伝統を基盤とし、農業の学びを中心とした生き生きとした高校生活を通して、命の尊さを学び、地域社会を活気づける豊かな感性を身に付けた多くの人材を世に送り出してきました。この学び舎を巣立った先輩は今日も県内はもとより全国各地、様々な分野で活躍しています。現在ここに学ぶ在校生の活躍も目覚ましいものがあり、数々の栄光を年々更新し、その伝統は連綿として受け継がれています。

さて、皆さんはこれまでも小学校や中学校で多くのことを学んできましたが、人は、学校での教育だけでなく、周囲の人の言動や行動、地域の環境や文化、雰囲気など、私たちの周りに空気のように存在するものからも多くのことを無意識に吸収しています。私たちが駆け抜けてきたここ数年は、大震災という未曾有の自然災害からの復興や新型コロナウイルス感染症との闘い、地方創生への強い期待、SDG's の持続可能な社会実現への挑戦が社会をリードしてきたといえます。その中で、人々の中に育まれたものは「ピンチをチャンスに変える」というたくましさ、「地域を分厚く支える」という責任感、そして「誰ひとり取り残さない」という決意ではないかと思います。そしてそれらは、皆さんの中にも芽生え、心臓のように鼓動し始めているはずです。その音に耳を傾けよう。もう一度言います。「ピンチをチャンスに変える」「地域を分厚く支える」「誰ひとり取り残さない」これから生きていくうえでカギとなる響きです。

学校で学ぶ生徒、特に高校生というのはその一人ひとりが存在していること自体が社会の大きな活力になります。まずはそのことを自覚し、自信をもって高校生活の第一歩を踏み出してほしい。

皆さんの中には、まだ将来何をすべきか答えを見出せない人もいると思います。皆さんが学ぶ農業は、今や最先端の技術をどんどん吸収する一方で、人々の幸せな生活を担い、額に汗して働くことをいとわない、人間生活の不可欠な基盤となる産業です。農業を学ぶということは、単にその知識や技術を身に付けるだけでなく、「命」の尊さとそれを支える方法を学ぶということです。

この意味をしっかりと胸に刻み、日々の学習や行事、様々な活動を楽しみ積極的に
に行うことを通し、自分の頭で考え、判断し、進むべき道を必ず切り開くことが
できます。

一時的に遠のいたように思われた感染症が再び私たちの生活を脅かしていま
す。その被害を最小限に抑える新しい生活様式はかなり定着しましたが、状況は
それ以上の対策を求めるように私たちに迫ります。予測不能な新しい時代に立
ち向かう強い覚悟なしに、以前の生活の復活を望むことはもはや難しい状況で
す。しかし、この中で耐え忍び、それでも希望を失わず知性を磨き、楽しく前向
きに学びを進めていくことが私たちに課された使命です。

最後に、教育者、東井義雄さんの言葉を皆さんに贈ります。

- ・自分は自分の主人公。世界でただひとりの自分をつくっていく責任者。
- ・生きているということはどんなに素晴らしいことで、どんなにただ事ではな
いのか。
- ・亀は兎になれない。しかしそのつもりになって努力すれば日本一の亀には
なれる
- ・君は 君をりっぱにする世界でただ一人の責任者なんだ

皆さんの本校でのご活躍を心より期待し、式辞といたします。

令和3年4月9日

山形県立置賜農業高等学校

校長 鈴木 通明